

日本ボーイスカウト北海道連盟だより 146号



斧の響き



北海道のボーイスカウト運動に風を吹かそう！！

日本ボーイスカウト北海道連盟
理事長 長岡 正彦

まずは、新聞各紙に掲載された事につきまして、ご心配おかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

今年度上半期は、とても暑かった山口県での「16NJ」への参加、アイヌの生活文化に学ぶ白老での「北海道ベンチャーのつどい」、念願の「ビーバー、カブ集会テキスト及びDVD刊行」等がありました。

16NJでは宮城県連盟からの一個班があつてやつと二個隊を編成することができました。3年前の15NJでは五個隊も編成出来たのにといい思いを抱きました。

さて平成18年度末の北海道の登録数は、スカウトが1,775名、成人指導者が1,173名で合計2,948名でした。今年度10月24日現在ではスカウトが888名、成人指導者が796名で合計1,684名となっており、実にスカウトで887名の減、成人指導者で377名の減で、この7年間では合計1,264名の減少となってしまいました。

この原因を少子化や子供を取り巻く環境の多様化など、他の要因のせいにするのは簡単なことです。

「子供が減ったからね」「塾や部活に忙しいからね」と一括りにしていませんか。

子供が減ってもスカウト運動に入ってくる子どもは沢山います。しかし、それ以上に中途退団していくスカウトが多い現実を直視しなければなりません。

私たちのスカウト運動は教育運動だという認識が、もしかすると不足しているのかもしれない。

私が子どもの頃のスカウト活動の売りは野外活動、奉仕活動でした。「ボーイスカウトに入ればキャンプできるよ、街頭に立ってカッコ良く募金活動できるよ」で募集できたのです。

しかし今やファミリーキャンプあり、ボランティアでの色々な奉仕活動があり、ボーイスカウト運動はかすんでしまっています。では何を売りにしていくのでしょうか。中途退団を抑止するにはどんな手立てが必要なのでしょう。どんな考えでスカウト運動に関わっていくべきなのでしょう。

今年度の北海道連盟総会で「北海道のボーイスカウト運動中期展望」を検討することが承認され、プロジェクトを進めております。

展望というよりは北海道連盟の現状把握・認識に近いものですが、理事会の議を経て皆さんの目に触れることとなりますので、是非これをもとに各団、各隊で議論をしていただき北海道のボーイスカウト運動に風を吹かせ共に盛り上がりましょう。

暑かった！！ 16NJ

7月31日～8月8日の9日間、山口県きらら浜で開催された第16回日本ジャンボリーには、北海道から次のとおり参加しました。

隊・本部	指導者	スカウト	参加団数
第1隊	4名	36名	10個団
第2隊	4名	32名	12個団
本部	13名	2名	
合計	21名	70名	22個団

*第1隊に宮城県連盟泉第1団：指導者1名、スカウト10名含む

*スカウトにベンチャースカウト含む

また、県連提供プログラムでは「イランカラッテ：アイヌ文化紹介パネル展示とムックリ演奏体験」を行い、国内19県連364名、国外8カ国・地域から69名、計433名参加しました。

期間中の山口県豪雨災害に対して、参加スカウトが義援金を集め、山口県連盟派遣団に寄託してジャンボリーニュースで紹介されると共に、山口県知事から礼状が寄せられ、また、中日の8月4日にはスカウト達が経験したことのない、突然襲った雷がともなう集中豪雨（1時間弱のゲリラ豪雨）にあい、泥まみれになったキャンプサイトを北海道派遣団本部のメンバーが“どろかき”の応援をするなどのトピックもありました。

参加したスカウトの感想文からジャンボリーに参加した貴重な体験、思い出、そして自分達のスカウティングや23WSJに向けた夢が読み取れます。

詳しいことは、北海道連盟ホームページに掲載してありますので、スカウトたちの成長をお読み取りください。

《留辺薬ロータリークラブ例会での報告から》

留辺薬第2団 鴻上一樹団委員が所属している留辺薬ロータリークラブ例会で、留辺薬第2団のスカウト3名がゲストスピーチしましたので、その概要を紹介します。

〔はじめに：鴻上 一樹〕

毎年ボーイスカウト留辺薬第2団の活動報告をさせていただいていますが、今年は日本ジャンボリーが開催されましたので、そちらの報告をさせていただきます。

日本ジャンボリーは4年に1度、日本中のボーイスカウトが集い、世界各国からスカウトを招いて行われる大きな大会で、今回で16回目の開催となります。

前回開催されたのは2010年で、本来ならば2014年に開催されるはずなのですが、2015年には日本で世界ジャンボリーが開催されることになっており、今回の日本ジャンボリーを世界ジャンボリーのプレ大会として位置づけし、1年早めて開催されました。

そのような経過から、今回の日本ジャンボリーは世界ジャンボリーに開催期間を合わせて9日間に変更されました。従来は6日間でしたので、たいへん大きな変更です。指導者にとっては、長期間の休暇を取得して参加しなければならず、留辺薬の指導者で都合のつく方がいなかったことから、スカウトのみ3名が参加しました。

参加したスカウトを紹介します。得能駿佑、高畑寿矢、今泉賢斗の3名です。彼らは7月30日に開催された北海道神宮での事前訓練、7月31日から8月8日までの9日間、山口県山口市のきらら浜で開催された日本ジャンボリー、都合10日間の野営生活を体験してきました。大会には日本と世界27カ国から1万4千人が集まりました。これから3人にジャンボリーの概要と感想を発表してもらいます。

〔大会準備～開会式：得能 駿佑 君〕

7月30日、大会が始まる前日に初めて編成隊のメンバーと北海道神宮で顔を合わせました。

編成隊のメンバーは、道内は札幌、函館、留萌、旭川、名寄、帯広そして北見から集まり、道外からは宮城県からの、計40名でした。

北海道神宮では大会の説明が行われ、打合せやソングの練習、班編成や交流会が行われました。

7月31日に飛行機を使い、福岡経由で山口県の大会会場に入りました。到着した時間は午後4時頃で、すぐにテントなどの設営を始めましたが、使い慣れていないテントや炊具、工具、そして設置場所もなかなか定まらず、夕食をとったのは午後11時頃でした。しかし、日が経つにつれて道具にも人にも慣れて、炊事に要する時間は短くなっていきました。

8月1日は開会式があり、1万4千人の仲間がアリーナに集まりました。航空ショーも行われ、初めて見た僕はとても感動しました。

〔ジャンボリープログラム：高畑 寿矢 君〕

ジャンボリーでは、平和、文化（カルチャー）、科学（サイエンス）、交流といったテーマをもとにプログラムが展開されました。

「平和」というテーマでは、「広島ピースプログラム」と称して広島県に移動し、原爆ドームや博物館を見学しました。博物館では、原爆が投下される直前の映像や、病院で苦しんでいる人の写真がありました。資料には、とても心が痛むような写真や話がありました。

「交流」というテーマでは、参加者1万4千人が集い、ステージにてアリーナショーが行われました。

ステージでは日本各地の踊りなどの出し物が行われ、また宇宙飛行士の野口さんや、地元山口県出身のご当地アイドル「山口活性学園」が登場しました。参加したスカウトは、歌ったり、踊ったりと、非常に盛り上がりました。宇宙飛行士の野口さんは、子どもの頃ボーイスカウトに入っていたようで、忙しい中、ジャンボリーのために時間を割いてくれたそうです。

「文化（カルチャー）」「科学（サイエンス）」というテーマでは、大会会場内にブースを設け、展示されているものを見学したり、体験したりしました。

「文化（カルチャー）」は、各県連盟がブースを設け、北海道では「アイヌ文化」を取り上げ、衣装の展示やムックリ作りを行っていました。私はアニメの展示を見たかったのですが、混雑していてまったく見えませんでした。

岡山県のブースでは「スイトン」を作りました。「科学（サイエンス）」は、企業がブースを設け、最先端技術や商品の開発経過などの話を聞くことができました。私は、「ストライド」というガムの開発経過の話を聞いたり、スポーツ飲料メーカーのブースでは熱中症に関する話を聞くことができました。

〔ジャンボリーでの生活：今泉 賢斗 君〕

大会期間中は暑い日が続いていましたが、8月2日の午後2時頃、温度計は40度を超えていました。北海道では体験できない未知の数字だと思います。この暑さで、隊の仲間が熱射病で倒れてしまい、救護所で手当てを受けました。

この様子を見てかどうかはわかりませんが、大会メニューにはない宮城名物「ウーメン」（ソーメンのようなもの）をリーダーがごちそうしてくれました。皆いつも以上においしそうに食べていました。

雨は1度だけ降りましたが、その1度が「ゲリラ豪雨」で、初めての体験でした。私はちょうどシャワーを浴びに行こうとしていたところでしたので、雨がシャワーになりました。ちょっと痛かったけど。

この豪雨で、私たちのサイトは水であふれ、水没したテントもありました。私たちスカウトがアリーナショーに出かけている間に、隊長たちはひしゃくなどを使って排水作業をしてくれ、何とか避難せずすみませんでした。

他県連のスカウト、外国のスカウトとの交流交歓会も行いました。私たちは十勝名産の「ぶた井」でお迎えしましたが、山口県と交流した時には「ふぐ」をごちそうしていただき、私ははじめてのふぐでしたので、とても感動しました。

大会期間中は名札を兼ねたIDカードが各自に配付され、場外への出入り、プログラムブースの入場などの管理がカードで行われていました。カードを忘れるとプログラムに参加できなくなり、数キロ離れているテントサイトまでカードを取りに戻るようになります。

8月7日に閉会式があり、最後の夜ということでたいへん盛り上がりました。そして8月8日に大会会場を後にしましたが、仲良くなった仲間との別れはとてもつらかったです。

〔ジャンボリーに参加した感想〕

○ 今泉 賢斗 君

私は8泊9日のジャンボリーを通していろんなことを学びました。

まず、初めて隊の仲間と顔を合わせた時には、私は友達を作ることが得意ですが、それが苦手な人もいて、仲良くなるのが遅くなると活動も遅れてしまい、人と対話することの大切さを学びました。

次に、広島ピースプログラムで広島に移動し、原爆ドームや平和記念資料館を見て原爆の恐ろしさや放射能の後遺症で苦しんで死んでいった人のことを知り、平和の大切さを学びました。

このジャンボリーを通して、平和についてあらためて向き合えたとし、色々な人と交流ができてすごく楽しかったです。

○ 得能 駿佑 君

初日から3日目ぐらいまで、僕はめんどろうだと思うことが少しありました。しかし、日が経つにつれ、編成隊のみんなとの活動が楽しいと思うようになりました。

僕の動きも、グダグダしていたものが、だんだん積極的に取り組むようになってきました。

大会プログラムでは、今の科学技術の進歩を見て、人間の努力がすごいものだと感動しました。

生活面では、体験したことのないゲリラ豪雨に見舞われ、排水などの余分な仕事が増えた時に、皆つらそうな顔をせず頑張っているのを見て、自分も「頑張らなくては」と思い、積極的に行動しました。その結果、班の皆から「よくがんばった」と言われました。

山口に行くまでは「めんどろうだ」と思っていたこともありましたが、普段の生活では体験できないことも体験でき、今は山口に行って良かったと思っています。

僕自身も、ものすごく成長したんじゃないかなと思っています。

○ 高畑 寿矢 君

ジャンボリーに行行って色々なことを学び、すごく楽しく過ごすことができました。友達もたくさんできました。2年後の世界ジャンボリーにも行きたいと思っています。

〔まとめ：鴻上 一樹〕

3人のスカウトよりジャンボリーの発表がありました。10日間のキャンプを過ごし、すごくたくましくなったと思います。毎回ジャンボリーから帰ってきたスカウトは真っ黒に日焼けし、長期キャンプを過ごしてきた充実感、達成感があふれていますが、今回は今まで以上に長期間で、自団の指導者もいなく、子どもたちにも負担が大きかったと思います。その分、彼らは大きく、たくましくなりました。

さて、2015年に、今回の日本ジャンボリーと同じ場所で世界ジャンボリーが開催されます。世界ジャンボリーも4年に1度開催され、山口県での大会が23回目の開催となります。

世界161の国、地域より3万人が約2週間のキャンプ生活をともにしながら、会場内での異文化や環境についてのプログラムや、広島でのピースプログラムなどを通じて体験し、学び、友情と国際理解を深めます。

留辺薬ロータリークラブには、既にジャンボリーへのご支援をいただいておりますが、今後も引き続きご支援いただきますよう、あらためてお願い申し上げます。3名のスカウトも参加を希望しています。

また、ボーイスカウト留辺薬第2団へも、今までどおりご支援いただきますようお願いし、本日の発表を閉めさせていただきたいと思ひます。ありがとうございました。

＝留辺薬ロータリークラブ週報 No2700 から転載させていただきました＝



北海道のボーイスカウト運動推進中期展望

～北海道のボーイスカウト運動に風を吹かそう～

《総討議を要請》

北海道のボーイスカウト運動に風を吹かす「中期展望」（素案／討議資料）を作成し、11月9日に開催されました理事会で承認を得て、登録名簿に基づいて各隊長、団委員長および地区委員長、地区コミッショナーに送付しました。

「北海道のボーイスカウト運動に風を吹かす「中期展望」（素案／討議資料）」は、長文ですが、先ず読んでください。様々な事が書いてあります。

ご自身と所属している隊・団、地区の状況を照らし合わせて考えてみましょう。

隊・団・地区の仲間と語り合ってください。

活動歴の長い方、年長者は、活動歴の短い方、若い人の意見を聞いてください。

活動歴の短い方、若い方は語ってください。

できることから見つけ直し、できることから少しずつ行動しましょう。

先ずは「隊・団の、そして一人ひとりの活動目標、教育理念」を決め、それをもとに活動をしましょう。

北海道連盟では、地区（場合によっては団）を訪問して、共に悩み・考えて、平成26年度以降の北海道のボーイスカウト運動の推進にあたります。

＝北海道のボーイスカウト運動推進中期展望 記載項目＝

I 指導者の資質を高め、豊かなプログラムを展開しましょう

- 1 「ボーイスカウトって何ですか？」と聞かれて一言で応えられますか！！
- 2 ボーイスカウトならではの活動プログラムですか！！
- 3 スカウト教育の特性を活かした活動をしていますか！！
- 4 保護者や地域社会の期待に応える活動をしていますか！！
- 5 ボランティアとしての責務を果たしていますか！！

II 団・地区の機能を強めるために道連の体制を整備し、若手指導者の育成を図りましょう

- 1 団活動が機能していますか
- 2 若手指導者を発掘・育成して運動の継承を図る風を吹かせましょう！！
- 3 地区機能のあり様を考えましょう！！
- 4 自立した道連体制の整備を図ります

III 補充

- 1 周知活動による、組織拡充方策
- 2 行政機関や学校（PTA）、企業等との連携
- 3 組織拡充のための数値目標設定
- 4 一人ひとりの力を活かして
- 5 全体を見て次のプロセスを考えよう
- 6 先輩の言葉

平成26年度北海道カブラリー
平成26年9月13日（土）～15日（月・祝日）
札幌市青少年山の家（札幌市南区滝野公園）で開催

平成26年度北海道カブラリーは、平成26年9月13日（土）～15日（月・祝日）に、開催します。
 年間プログラムに組み込み予定しましょう。
 詳細の内容等は企画プロジェクトで検討中です。参加案内は平成26年3月に発送する予定です。

テーマ	ボーイズ ビー アンビシャス ～カブの冒険・挑戦～（仮題）
ねらい	組活動を中心にスカウトの自主性を育み、体験・交流を深める
参加費	スカウト1名 10,000円程度／指導者 1名 13,000円程度 =予定=
参加案内	平成26年3月の予定
申込締め切り	平成26年7月下旬の予定：予備申し込みを行わないため参加申込締め切り期日厳守

〔プログラム内容=予定=〕

*プログラムタイトルは仮称です

期 日	9月13日（土）	9月14日（日）	9月15日（月・祝日）
午前の部		カブスカウトの 札幌市内探検隊	滝野公園の冒険
午後の部	受付／開会式 滝野公園に挑戦		昼食後解散
夜間の部	ナイトプログラム	キャンプファイヤー	

* 夜間の部、9月13日の「ナイトプログラム」と9月14日の「キャンプファイヤー」が入れ替えになることもあります。

プログラム名（仮称）	内容（予定）
〔滝野公園に挑戦〕	組ごとに、「虹の巣ドーム」「こどもの谷」など滝野公園のアドベンチャー遊具に挑戦
〔ナイトプログラム〕	「円山動物園で夜の動物生態観察」「札幌ドームでのプロスポーツ観戦」「移動天文台による星座観察」などを交渉・検討中ですが、主催者等の平成26年度事業計画により確定します。
〔カブスカウトの札幌市内探検隊〕	札幌だからできる体験・経験コースを札幌のスカウトがホスト役になり探索。 地方のスカウトと友情を育み、カブラリー後の交流まで発展させたい。各隊の年間プロと連動できるように配慮。
〔滝野公園の冒険〕	組ごとに滝野公園の森をミニハイクにより冒険します 又は、組対抗のワイドゲームなど



「平成23年度北海道カブラリー」から

「カブスカウト隊／ビーバースカウト隊 楽しい集会」

《テキスト・DVD》刊行

地区（団）訪問実務研修の実施

カブ隊・ビーバー隊の活動充実のツールとして活用いただけるよう、刊行しました。

各団のカブ隊・ビーバー隊の全指導者（含むデンリーダー、補助者）はもとより隊・団指導者の方々が購入されるよう要請します。

価格は《テキスト・DVD》1セット、1,000円です。北海道連盟事務局へお申込みください。

《実務研修の要請》

「カブスカウト隊／ビーバースカウト隊 楽しい集会」《テキスト・DVD》をもとに、隊・団・地区で実務研修をされるよう要請します。

この実務研修の開催は原則「地区」単位としますが、隊・団・指導者有志の単位でもよいです。

実務研修を開催するにあたり、北海道連盟は、プロジェクトメンバーもしくはトレーナーを派遣します。

「カブスカウト隊／ビーバースカウト隊 楽しい集会」《テキスト・DVD》の内容

《はじめに～リーダー会議を行いましょう～》	《プログラムの宝箱～ビーバー》
プログラムを作ろう	1 ビーバーの集会 月別プログラム例
1 プログラムを作る（考える）流れは！	2 ビーバーの集会 プログラム開発事例
2 カブスカウト 年プロのテーマは？	《さあ、ゲームをしよう》
3 テーマからアイデアをふくらませよう	～スカウトスキルの風味あるゲームを
4 ビーバースカウト ～季節毎のプログラムタイトルのヒント	《ソングで楽しいひと時を》
5 ビーバースカウト ～領域毎のプログラムタイトルのヒント	【DVD～基本動作指導とゲーム】
6 テーマからプログラムを組み立てる	《ビーバースカウト》
《組集会・隊集会の基本》	[基本動作] 気をつけ やすめ/敬礼 スカウト（ビーバー）サイン
1 カブ隊 組長集会例	[集散法] 集合/ビーバーコール/解散
2 カブ隊 組集会	[表彰と祝声]
3 カブ隊 隊集会例	《カブスカウト》
4 カブ隊 組集会のセレモニー	[基本動作] 気をつけ やすめ/すわれ 敬礼・立礼/方向転換/握手 スカウト（カブ）サイン
5 カブ隊 集散法とセレモニー（組集会）	さだめ やくそく/祝声
6 カブ隊 集散法とセレモニー（隊集会）	[集散法] 大輪・開会式/カブコール・しゃ がみかた/縦（横）隊整列 閉会 国旗降納/仲良しの輪
7 ビーバー隊 隊集会例	《豊かな活動をするために》
8 ビーバー隊 隊集会の反省・評価	[国旗掲揚・降納] 国旗をまいたままあげて開く 国旗を開いてあげる 国旗降納/組旗の持ち方
9 ビーバー隊 セレモニー	《ゲームを楽しもう》
《豊かな活動をするために》	じゃんけん前進/ゴーゴーじゃんけん列車 1本足のつる
1 安全はすべてに優先する！！	《動作付きソング》
2 「ちかい」と「おきて」の実践を意識しよう	ユポイヤヤ/ウルトラマン/気のいいアヒル
3 保護者に応援してもらうには	
4 指導者仲間との交流	
《プログラムの宝箱～カブ》	
1 カブの集会 月別 展開例	
2 カブの集会 プログラム開発事例	

進級状況 11月15日現在

隼章		1級章		宗教(仏教)章		信仰奨励章	
札幌第3団	1名	恵庭第1団	1名	室蘭第1団	1名	札幌第3団	1名
		滝川第1団	1名	千歳第1団	1名	札幌第12団	3名
		旭川第1団	1名			滝川第1団	2名
旭川第1団	1名	旭川第6団	1名				
旭川第20団	1名	釧路第6団	6名	外国語会話バッジ		世界スカウト環境バッジ	
富良野第1団	1名	帯広第7団	2名	伊達第1団	1名	旭川第20団	3名

技能章修得状況 11月15日現在

野営章		野営管理章		救急章		炊事章	
札幌第3団	1名	留萌第1団	1名	札幌第12団	1名	千歳第1団	1名
札幌第12団	1名	当麻第1団	1名	札幌第24団	1名	札幌第3団	1名
留萌第1団	1名	名寄第1団	2名	留萌第1団	1名	札幌第12団	1名
当麻第1団	1名			旭川第6団	2名	留萌第1団	1名
名寄第1団	2名			当麻第1団	1名	当麻第1団	1名
				名寄第1団	2名	名寄第2団	2名
						釧路第6団	1名
伝統芸能章		自転車章		スキー章			
旭川第1団	1名	旭川第20団	1名	釧路第6団	1名		

【パトロールシステム研修会】

ボーイスカウト教育の特性である「班制教育(パトロールシステム)」について、理論と実務を学習する研修会を、部外の専門講師を迎えて開催します。よりよいスカウトを育てるために是非ご参加ください。詳しい参加案内は近日中に道連ホームページに掲載すると共に、各団へご案内します

【内容】

- ◇ロジャー・ハートの子どもの参画 ◇異年齢集団のグループワーク ◇コミュニケーションスキル
- ◇ボーイスカウトの教育法(班制教育) ◇グループワーク(参加者による討議)

【期日・開催地】

- 《旭川会場》 旭川市神楽公民館 平成26年1月12日(日)
- 《北網会場》 北見市留辺蘂町 塩別つるつる温泉 平成26年1月25日(土)～26日(日)

＝編集後記＝

- ◇ 「16NJ」「北海道のボーイスカウト運動推進中期展望」「平成26年度カブラリー」特集の「斧の響き146号」をお届けします。次号は1月1日号「第55回全道研特集」「ベンチャースカウト育成特集」と「新春誌上賀詞交換」を予定しています。
- ◇ 「新春誌上賀詞交換」の原稿を募集しています。1口(横8cm×縦4.5cm)2,000円です。詳しいことは、各団・各地区あておよび道連ホームページでご案内しています。締切りは12月9日。

斧の響き 146号(平成25年11月15日発行)

発行・印刷：日本ボーイスカウト北海道連盟／発行責任者：北海道連盟 理事長 長岡 正彦

〒062-0934 札幌市豊平区平岸4条14丁目3-40 北海道ボーイスカウト会館内

Tel 011-823-7121 / Fax 011-814-9377 E-Mail bs-douren@bz04.plala.or.jp

北海道連盟公式HP <http://www.bs-douren.org/>